

失せ物^{もの}が
もどってくる
松本の観音さん

昭和五十七年九月五日号

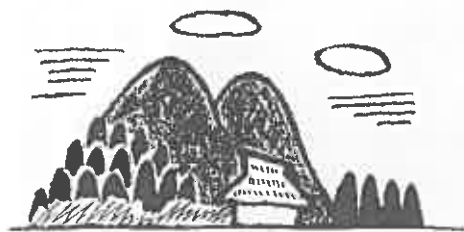
話してくれた人

鈴木房吉さん(新町)

左にあんだ縄を供えて

あの頃は、そう、わしがまだ子ども頃の
ことなんだがな。今のようにテレビもないし、
夕食が済んでからの楽しみといえば、いろいろ
のはたでおじいさんの昔話を聞くことだった。
それこそまばたきもせず、息をこらして聞き
入っていたもんだよ。

松本の観音さんは、三十三番観音とも言わ
れ、いつの頃からか、失せ物をした時には、
自分で縄をなってお供えすれば、失くなった



物が出てくるという伝えがあつてナ。そうそう、縄をなうには、なぜか逆の左にあんだものでないかだめなんだよ。

そんなわけで観音さんのお堂にはいつも左にあんだ縄が供えられていたもんだ。わしはやつたことはないが、何でも人の話しでは、ご利益があるということだ。

村内の農家の人だがな、ある時、牛に引かせるスキが失くなってしまった。どこをさがしてもどうしてもない。そこで観音さんをお願い申したところ、次の朝、農機具置場にちやくんとあつたそうナ。

その人は喜んで、観音さんにお礼のお酒を供えたということだ。



今は鉄筋のお堂となった松本の観音さん